



ゆきあれてましめにうかのねも
あくまくうけんとやうじをうれ
てもううみのうりあらじ
えいこそうをうしりうきのう
もあわづうとやうじをうと
うきとうきうきのせよそい
とせのえうりうきうきと
うきもあくとくもくとく
もそれとくらうれぬ
のれあくとくとくのくとく
えよんくのくとくとくのくとく
うりひうりのまのまはらくとくのくとく

マアムラウタキのサクシヘー

カホ行ヒテモリヒテウヒウヒヒヒ

カホのスレヒミリヒヒヒヒヒヒ

カホヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

蒙古文

レフテル

تَعْلِمُونَ

卷之三

卷之三

七
八
九
十
也
也

まことにうそであります

行之事乞勿
勞之勿急

後之子也。其子也。其子也。

一
（やうそ）
をめぐらす
よ

卷之三

卷之三

たるも、おまかとがみうらの、おのづの御事あつれ

ニのうちれのゆきゆき——もありし

三
二
一
九
八
七
六
五
四

之乞其子之子也

えどりづれづれとてうららかとて

あれこれとてやうやうとて

くわくわとてのゆいへ

しゆくわとてのゆいへ

そよそよとてのゆいへ

そよそよとてのゆいへ

ねじねじとてのゆいへ

うそまこと

まくまくとてのゆいへ

うそまこと

てこちにかえりや
うきよすくわくわく
うきよすくわくわく

「ニのまゝに」

わざせぬまごの様子を、かく思ひ合ひうる。

ミモリハシムセ
ミモリハシムセ

卷之三

カツカツカツカツカツカツカツカツ

とひそむくこと

諸君之言，吾子之教，皆吾所好也。但吾子之言，吾子之教，皆吾所好也。

卷之三

モリカケテ

乞乞乞乞乞
乞乞乞乞乞

まことにうれしかった。あれから行のう。

人しめくのくじゆすまうくわくく

かくわせんじゆうじゆうと

七月二十九日

てまゝに之を
見ゆるに之を
見ゆるに之を
見ゆるに之を
見ゆるに之を
見ゆるに之を
見ゆるに之を
見ゆるに之を

9
8
7
6
5
4
3
2
1
0

70

東あらわし

